



奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

No. 161

2011
OCT. 10

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人:

関西障害者定期刊行物協会

編集人: 奈良県自閉症協会

支部長&事務局: 河村舟二

〒639-1005

大和郡山市矢田山町 84-10

購読料 1部 100円

会員は会費に含まれています。

2011年度の都道府県・政令指定都市、自閉症協会役員連絡会が10月1日2日にわたって弘済会館(東京千代田区麹町)で行われました。

1日目は山崎症氏晃資(やまざきこうすけ)会長の中央情勢報告と小林真理子厚生労働省発達障害専門官および石塚謙二文部科学省特別支援教育調査官による行政説明があり、2日目はグループ討議による意見交換会などがありました。

障害者の福祉に関しては2013年8月までに障害者総合福祉法(仮称)の施行をめざし、ここ最近めまぐるしい法律の成立と改訂がなされていて、今は、昨年12月のに成立したいわゆる「つなぎ法」が実施されています。今は新旧の法律、障害者自立支援法用語が混在しており、厚労省の担当者の説明も落ち着いた様子でした。障害者自立支援法の支援施策の5本柱は①障害者施策を3障害一元化②利用者本位のサービス体系に再生③就労支援の抜本的強化④支給決定の透明化、明確化⑤安定的な財源の確保です。三障害の一元化といっても発達障害に特化した支援策が必要であり、一応全国に出来た発達障害者支援センターの仕事も、今後は、現在の規定から専門化の養成・啓発事業の強化・発達障害用の支援システムをつくる方向に変えていくようです。昼夜分離のサービス

利用、発達障害者も精神保健福祉手帳がもらえること。発達障害者の障害基礎年金の診断書も発達障害を扱いやすい様式に改められたこと、若年コミュニケーション能力要支援者就職プログラムはほとんどの府県が実施しているのに奈良などはやっていないこと。巡回支援専門員整備事業などの説明を受けましたが、多岐にわたるので省略します。

教育では知的障害と発達障害の違いは適応課題にあることが示されました。IQ50以下でも会社に勤められる知的障害者とIQ140以上でも社会適応・生活適応が難しい自閉症者をはじめとする発達障害者がいます。学校教育法上では自閉症という言葉は施行規則の通級に関する項目だけであり、他国のように自閉症が全面的にはまだ位置付けられていません。そのためには、たとえば学校教育法施行令22条の3、心身の故障の程度の中に自閉症が位置付けることが今後必要です。ただし教育法に位置付ける事で、教員配置や施設整備などハード面の試算によると数十億円、教員千人以上の予算化がいくようです。自閉症に特化した自立活動、人間関係の形成に重点を置いた教育カリキュラムが必要です。さらに教員の専門性についても課題があり、現在、特別支援学校では全国7割が専門免許(特別支援学校教諭免許教)を持っているが、各小中

に設けられている特別支援学級では地域格差が大きく福井が最高で68.2%で最低が三重で16.8%のようです。いずれは全ての教員が発達障害児教育の専門性を身につけなければならないと思います。自閉症がきちっと我が国の学校教育法に位置付けられるためには、まだまだ、国民への啓発と政治的なロビー活動が必要のように思いました。

今回の震災の状況報告では見えしてきた課題として(1)自閉症児者の避難所の問題では体育館は絶対無理という多くの声があったこと。車は自閉症家族の避難アイテムとして重宝なもので、しかも車を避難所の近くに止められればベスト。自閉症児者には支援学級、支援校の開放が重要。今回も一部の学校管理職の裁量で開放したところもあったようだが、支援学級は市町村、支援学校は県の管轄のため非常時の対処法を前もって決めておくことが必要だそうです。また、自閉症の家族が利用できる福祉避難所が必要であり・地域に福祉避難所として使える施設等を確保し事前の周知しておくことが重要です。今回一応は福祉避難所として指定されたものの自閉症児者にはそぐわない所もあったようです。自閉症児者の日常的な地域とのつながり、地域で育つ・インクルーシブ教育が重要なカギのようです。避難所での暮らしについては、

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)日発行

それぞれの特性に応じた自閉症マイパックを準備しておくといようです。①命を守るため ②安定を図るため ③自分を知ってもらうため④時間を過ごすための観点で整理します。今回多くのもがない状況（・電気がない・食糧がない・水道がない・学校がない・情報がない・家族がない・交通手段がない・見通しがない）で、自閉症児者にとって日常がない状態だったため、子どもの混乱した行動がみられたようです。それは①感覚の過敏、②確認行動③復旧要求④地震津波を自分のせいにする⑤立派な行動などでした。自閉症の人には見通しを持たせるとこれらが解決するのですが、いつライフラインが復旧するかの見通しもなかったため、親や関係者は彼らへの対応に大変だったようです。今回、被災地において「障害のある子どもやその家族」の最も大きな支えとなった

のは、「人」だったそうです。人と人との結びつきが強いこと、人と人との結びつきが生まれること、人と人との結びつきがひろがっていくこと、それによって、大きな困難を乗り越えることができる希望が見えてきます。そういう地域、社会を築いていく中心に自閉症の子ども達があります。と岩手県自閉症協会の熊本さんは話を結ばれました。

山崎会長が新会長就任の挨拶でも述べられていましたが、「当事者性」が自閉症協会の特徴です。多くの障害の中でも、私たちの子どもは自らの立場を主張できない障害なので、親や関係者は常に本人の代弁者であるのです。自閉症の人々の幸せを守るという一点で保護者・家族・教育医療福祉関係者が持つ志です。国連で4月2日を世界自閉症啓発デーに定めた理由も、自閉症はこの点に配慮すべき障害であり、自身からの要

求は出来なくてもそのことで自閉症を軽んずることがあってはならないという意味を含みます。潘基文事務総長も啓発デーのメッセージで常にふれられています。弱者が切り捨てられないためにも、公益法人日本自閉症協会として、もっと大きくし、政治や行政および障害者団体組織の中で発言力を増す必要があります。そのために、2日目、各協会の会員数を増やすにはどうしたらいいのか？というテーマでグループ討議が行われ、活発な意見が出されました。

(河村)

平成23年10月6日

公明党

災害対策本部

本部長 木庭 健太郎 殿

障がい者福祉委員会

委員長 高木 美智代 殿

社団法人日本自閉症協会

会長 山 崎 晃 資

災害時における障がい者支援と今後の防災対策について

今回の災害時において、自閉症の人やその家族にとって、被災の生活は、「障害者」として一括りに出来ない苦労や困難があることが明らかになりました。

例えば、慣れた生活状況が一変したことによる不安の強まり、避難所という集団状況に馴染めず、動き回っ

たり声を上げることについて、周囲の反応を気にする親側の不安の強まりなど、本人だけでなく家族にとっても過酷な状況に陥りやすいことです。この事実は、すでに新聞やテレビなどのマスコミで報道されました。また一方で、普段から自閉症の人を受け入れている社会福祉施設や学校などの社会資源が、本人や家族にとっての安心出来る居場所となりました。

そして、自閉症の人たちに対応できる人材確保という点に置いて、支援拠点として重要な役割を果たすことが明らかになっています。

これらのことから、当協会としては、「自閉症」という他者との場の共有や関わりに困難を有する人たちへの災害時における標記について、下記のとおり要望いたします。

記

○東日本大震災に関する現状に対する要望

1 物が全部流されているので、冬支度の普通の生活を作り上げることに加えて、自閉症児にとって必要な環境や生活物資を取り揃え、まずは子どもの生活を「元に戻す」ことが必要である。

このため、被災した自閉症児者（障害者）家族の生活が回復するまでの中期（3～5年）的な財政支援が必要である。

2 自閉症をはじめとする発達障害に対応できる医師の被災地への中・長期的派遣が必要である。

3 自閉症の特性を関係機関及び支援者の人たちへ伝えるものがなく、障害証明としての「発達障害者手帳」

などの発行が必要である。

○防災計画等に盛り込むべき課題と要望

1 災害が発生した際に、福祉施設（自閉症関係施設）が常設福祉避難所としての役割を担うための体制を整備することが必要である。

一方、公立小中学校は、避難所として活用できたが、県立特別支援学校が活用できなかった面もあり、よりよい運用が必要である。

2 個人情報保護法があることで、障害児がいるということが地域の福祉関係者に十分知られていなかった。市町村関係者はだれも確認に来なかった。せめて地域の相談支援専門員には障害児者の存在と住所を周知し、障害者の安否確認が行わ

評価するようになりました。系統的な指導・訓練を受けず、継続的な臨床的関わりをせずに発達障害の臨床に携わっている人々を見ていると、臨床家の衿持はどこへ行ってしまったのかと思わざるを得ません。

子どもの臨床は、発達歴を可能な限り詳細に調べ、時間や場所を変えて何度も行動観察をし、家庭・幼稚園・保育園・学校などからの子どものに関する情報を可能な限り集め、その子どもについての理解を深めていくものです。もともと『診断 (Diagnosis)』とは語源的に『知識のすべて』という意味であり、臨床家の知識と経験を総動員させて、その子どもについての理解と対応を考えることです。その意味では、『病名をつけること』は診断のごく一部に過ぎません。たしかに『医師法』には『医業』についての規定が明記されていますが、医師以外の多職種

れる体制を整備することが必要である。

3 災害救助法では一度救済したら二度目は救済しないという定義により、支援物資を受け取る権利がなくなった自閉症児者がおり、このようなケースを救済するための法律の整備が必要である。

の方々が発達障害に関わるようになった現在では、医学的診断、心理学的診断、教育学的診断、福祉的診断などがあるはずで

。「私は医師ではありませんので“診断はいたしません”」というノン・メディカルな専門家の話をよく耳にしますが、それは『子どもについての理解』を放棄した責任回避、または逃げ口上です。自分の専門的立場に立った子どもについての理解・見立て・評価などをきちんと述べるべきです。さらにいえば、医学的診断分類をつまみ食いすべきではなく、それぞれの専門領域における診断分類体系を整えるべきです。『発達障害』概念についての議論には歴史的変遷がありました。現時点で発達障害とされているものにはそれぞれの学問的背景と定義（または規定）があり、必ずしも同一の次元で論じられるものではありません。言うまで

日本 自閉症協会の山崎晃資

会長が JDD ネットとの会報に寄稿されている文章です。是非お読みください。

『発達障害』臨床に携わる人々へ
山崎 晃資（臨床児童精神医学研究所 所長）…最近、過度に『発達障害』が注目されて、発達障害を一括りにとらえる傾向が強まり、安易な診断がおこなわれるようになってきました。さまざまな学会で発達障害に関わるシンポジウムがもたれることも多くなりましたが、発達障害概念を真正面から論じ、問題点を明らかにしようとする試みは不十分と言わざるを得ません。さらに医師や専門家が『臨床へのためらい』や『臨床への恐れ』をもたなくなってきたことも気になります。

短時間の面接や行動観察で、『自閉症』、『アスペルガー症候群』、さらには『発達障害』と安易に診断・

もなく、精神医学の領域において用いられている国際的操作的診断基準 (ICD や DSM) は、暫定的なものです。そのために児童精神科医は臨床の場で常に悩んでいます。十分な情報が得られぬままに臨床的に関わらざるを得ないこともあり、医学的診断分類名を修正せざるを得ないこともあり、さらに現在の治療的関わりが適切なものかどうか悩むことはしばしばです。

発達障害の臨床に携わるすべての方々にお願いしたいことは、発達障害のある人々およびそのご家族と共に悩み続けて行ってもらいたいということです。(JDD ネット会報第 12 号より)

高機能・アスペルガー一部会
ケンケンパより
～勉強会の報告～

9月26日(月)
9:30~12:30
大和郡山市社会福祉会館にて
感覚統合療法について勉強会を開催。
講師には奈良県総合リハビリテーションセンターで作業療法士として活躍されている、宮崎義博にお越しいただきました。
当日は保護者、当事者の方、支援者の方を含む計12名の方が参加。
18ページもの資料を準備くださり、感覚の種類、それぞれの感覚の役割から自閉症の人がもつ感覚の障害・不器用さについて、また事前にお聞きしていた質問(今生活の中で困っていること)についてお話いただきました。途中、物の受け渡し方

の不器用さや顔を動かしながら黒板の字を見ることの困難さ、など実際に参加者全員が体験を通して学ぶことができました。

予定の時間をオーバーしても時間が足らず、学習面、生活面については・・・「また、今度にしましょう」と先生が言ってくださりました。また第2段!!勉強会の日程が決まりましたらお知らせしたいと思えます。

<アンケート>

①今、どのような感覚統合障害をお持ちですか?
手先が不器用。じっとできない。感覚が過敏すぎる。指吸い。
運動が苦手。苦手なことがあると怒ったり大声を出すので、やる気がない、わがままに見えてしまう。
板書。バランスの悪さ。

教室で座っていることがつらく、床に寝転がっていることが多い。
体育館に入るのが難しい。団体行動が苦手。
友達との付き合い方が下手。

②今日の勉強会で、役に立ったこと、今後の療育や家庭、学校で活かせるようなことはありましたか?
・ どのような活動がいいのか具体的にわかった。
・ 楽しい感覚統合でないといけないな!と思いました。
・ 感覚統合について自分でも勉強したいと思いました。
・ 姿勢の悪さや、指しゃぶりなどをする理由と、どんな取り組みをしていけばいいか話していただき、家でもいろいろと試してみたいと思いました。
・ 私自身が不器用で字が下手、姿勢の悪さなどで困ってきたので、子ど

もと一緒に取り組めていけたらと思います。自分がやる気がない、努力が足りないと思い続けてきたので、少しほっとしました。将来の就労について、少しずつ気になってきています。
・ レジメを先に作ってもらっていたこと。
・ どんな体の動きが苦手か知ったこと
・ 手や口の刺激が脳のテンションを高めるということ。
・ とても役にたつ話が聞けました。
・ 小学校に入ってから、急に指しゃぶりをするようになった。ストレスかと思っていたが、本人なりの目を覚まさせる工夫だったのかもと理解した。どうやって感覚刺激を入れたらいいのかわらなくて悩んでいたのが、参考になるお話がたくさん聞いてよかったです。
・ 黒板の文字をノートに書くことが

できなければ、書いたものをプリントしてもらえばいい。

③今後、感覚統合療法について、より深めたいことやもっと知りたいことがあれば教えてください。
・ スヌーズレンやリラックスできること。寝る時・寝る準備の上手な環境調整の仕方。
・ 第2段!また来てもらえたら嬉しいです。
・ 学習面について知りたいです。ありがとうございました。
・ リハセンが終了後、家庭でできるような療法を知りたいです。継続したプログラムがあればなあと思います。
・ 来年度から小学生なので学校での生活面が不安です。

ケンケンパへの問い合わせ
ml@kenkenpa.org
世話人 吉川 0745-31-0592 (自宅)
mikana0128@ybb.ne.jp



H23 年度赤い羽根共同募金の助成を受け、住みよい地域づくり支援事業「自閉症理解講座と映画会」を9月18日(日)奈良市北部会館 市民文化ホールにて、あいち国際女性映画祭愛知県興行協会賞受賞作品で、福岡県鞍手町にある知的障害者入所更正施設「サンガーデン鞍手」を約1年に渡り撮った、ドキュメンタリー映画「あした天気になる？」の映画を午前午後2回上映と、監督の宮崎信恵による演題「出演者の存在感の大きさに魅せられて」の講演会を開催しました。

監督のお話の中で、施設側からは、何の制約もなく、どこを撮ってもOKだったとの事。本当にそのまま何も飾らず、苦しいことも楽しいことも、施設での様子が映し出されている映画でした。奈良県自閉症協会では、久しぶりのドキュメンタリー

映画上映会でした。ドキュメンタリー映画もよかったとの声も多かったです。

平成15年の施設開設当初は何らかの行動障害を持っていたのですが、映画に映し出された方達は、落ち着いて生き生きと生活している姿が、多くありました。適切な環境や支援によって、ひとりひとりが、その人らしく落ち着いた生活が送れるようになることがよくわかる映画でした。この様な、適切な環境や支援を増やし、社会を変えていくためには、もっと多くの人に障害を知ってもらうことが大切だと、改めて思いました。これからも、このような誰にでもわかる、知ってもらえる映画を一人でも多くの方に見てもらえるように、活動していきたい。

映画と宮崎監督の講演の感想をまとめました。

■映画の感想をお聞かせ下さい。

☆ドキュメンタリー映画でしたので、保護者の方の言葉など、ひと言ひと言が胸に響きました。日々、小さな子ども達と接していますが、目の前にいる子ども達が大きくなった10年後20年後のことをあまり考えることなくきたように思います。考えさせられる映画であった。(福祉関係者)

☆身近かなところで、親の会や福祉関係者と一緒に自主上映会をしたいと思っています。(ボランティア)

☆自分が日々接している子ども達の将来をイメージするのに役立てます。生きづらさをそのまま受け止めるときに、寄り添ってくれる人が、まわりにいる彼らの日々が少し分かりました。(教員)

☆ドキュメンタリーで実際の施設での様子などを拝見できてよかったです。(保護者)

☆日々の生活の中で、私達が困ったと感じる行動をとられると、どうしてもこちらの意向に添わそうとしたりがちである。初心にもどき、彼らの気持ちに添うことを忘れず楽しく生活、歩んでいきたいと思えます。(保護者)

☆自閉症の息子も連れてきました。映画館では必ず眠ってしまうのに、今日初めて、最後まで観ていました。グループホームに興味を持ち始めています。一般の人への啓発としてだけでなく、本人たちにもみてもらいたらいいます。(保護者)

☆日頃、目にする機会のない場面が丁寧に描かれていると感じました。(会社員)

☆色々な気持ちがいっぱい、すぐには感想を書くのが難しいですが、見に来てよかったです。(保護者)

☆矯正すべきはこの社会です。「健全」な者が作る社会がこんな不幸な

社会のはずは、ありません。この映画で見るとケアが、特別な場ではなく、この社会で当たり前になるようにしたいです。「障害」とか「こだわり」も「健全」な社会が、作った基準であり、いかに根拠のないものか、私は毎日の暮らしの中で、教えてもらっています。(会社員)

☆発達障害の人もそうでない人も共に笑って過ごせる世の中・・・そうありたいと思う人は多いはず、では、どうしたら良いか？そのヒントを多くの人に伝えていく努力が必要だと思えます。(その他)

☆障害者の家族の気持ち、本人の気持ち、施設の対応の仕方など見ることが出来良かったです。(福祉関係者)

☆日常の活動の様子がありのままに見られて、感動で胸がいっぱいになりました。日々それぞれに一生懸命に生きている姿に勇気づけられ、私

も濃い人生を与えられていることを感じ、頑張っていこうと思えます。(福祉関係者)

☆感動しました。決して叱らない本人主体が、よく分かりました。色々な場、特に教員研修での上映など理解が深まると思えます。(保護者)

☆たくさんの人たちの表情が写されていて、その人達の気持ちがわかるような良い映画でした。(教員)

☆自閉症にもいろいろな個性があることを知りました(その他)

☆車椅子や白杖など目に見える障害ではないので、様々な苦労があると思えます。その中で親の方の笑顔を見て、この世の中に広く発達障害に対する理解が広がればと願います。(その他)

☆この様な施設や活動が、各地に出来たら嬉しいと思えます。(保護者)

☆人間としての働くことの大切さ、人と人のつながりの重要さを知り

ました。(保護者)
 ☆無知だったので勉強になった。自分に置き換えて観た。(保護者)
 ☆本人や保護者の方の普通のありのままの生活が観られて良かった。意見多数(保護者)
 ☆障害者の施設がたくさん出来るように、皆さんが安心して暮らせる世の中になって欲しいと思います。(その他)
 ☆普段の生活そのものが見られてよかった。「環境が障害を生み出している。作っている」という言葉が、重かった。私達が考えていなくてはいけないテーマだと思う。(教員)
 ☆子どもを支え合って子どもと共に成長しあって、笑顔で過ごせるようにまずは私自身が出来ることを、探していく事が、何より大切。時間と場所、そして人に関わりながら一緒に頑張っていこうと勇気をもらいました。家族の方々の良い表情や落ち

着きは本人の安心や安定からきているのかなと思いました。共に生きているからこそ、いいときもそうでないときも大切にしたい。(保護者)
 ☆私は普段、障がい者や自閉症の方との接触はあまりありませんが、映画を見て、障がい者の方の表情が変わっていくのが分かりました。自閉症の方を理解するのに良い映画だと思いました。(その他)
 ☆鞍手ゆたか福祉会の長谷川さんのブログを4年程前から拝見させてもらっています。映画が完成したのを知り、奈良での上映を心待ちにしていました。サンガーデンの制限の少なさに驚きました。皆、自由に自然な行動をしていたことが、印象的だった。親御さんの思い、利用者さんの思いがとても伝わりました。自分の働く職場(知的障害者入所・通所・GH)では、どうしても制限をしてしまう事が、多々あります。サン

ガーデンは理想です。勉強させてもらいました。少しでも職場に持ち帰り役立てたいです。(福祉関係者)
 ☆発達障害を持つ人々の偽りのない「生きる姿」を描いた映画だと思った。もっと多くの人がこの映画を観て、彼らを理解する努力をして欲しいと思った。(その他)
 ☆友人のお子さん?人が自閉症児です。二人のお子さんを育てていかれらる中で、お母さん自身の不安や大変さの解決の方法を見せていただいたと思いました。(その他)
 ☆様々な行動障害を持った人たちが、周りの人たちの理解と支援により、個性豊かな生活を過ごしている様子に感動しました。パニックや自傷などの場面・家庭の様子もありのまま映し出されていました。家族・利用者・支援者が、信頼し合えるのは、本人の意志尊重が基本理念にあるためだと思いました。また、活動

内容が多くある事に関心しました。(保護者)
 ☆とても良かったです。今・そしてこれまでに関わった子達と重なり途中何度も泣きました。私も、これからはずっと彼・彼女らの同士でありたいと思います。ここで暮らしている人たちは家庭的に恵まれた人たちでしたが、そうでない人たちもいるなあと、考えることができました。(教員)
 ☆生きるという同じ目的を持って生を全うしている私達人間。発達の早い・遅いの違いはあっても人と人との間に生かされてるということに変わりはないのですね。もっともっと社会にも目を向けていきたいと思いました。(教員)
 ■宮崎監督の講演内容はどうでしたか?
 ☆施設の職員の方々の「受容する」

という姿勢が心地よい居場所になっているのだというお話に共感しました。どこにいても相手が誰であっても「受容する」ということの大切さを改めて考えていました。(福祉関係者)
 ☆深く感動しました。この講演の後にもう一度映画を観たいと思いました(ボランティア)
 ☆気持ちのこもった心からのひと言一言でした。(教員)
 ☆社会を変えていけるように努力したいというお話とても感激しました。(保護者)
 ☆講演の中で、特に印象に残ったのは、自閉症の方は現在一般の方がなくしつつある何か大切なものをもっているということでした。(その他)
 ☆監督の熱い思いが伝わってきました。小さな事からでも何か出来ればと感じました。意見多数(保護者)
 ☆とてもとても良かったです。親た

ちが安心して子を託すし、共に歩いていける社会作っていきたくと思いました。私は教師ですので、学校教育も何が出来るのかももっともって考えていきたいです。
 ★「純粋という言葉だけではかたづけられない深いものを持っている」「社会の主人公として生きていく権利を持っている人たち」「全国の親御さんと連携したい」などとても印象に残りました。このメッセージしっかり受け止めます。(教員)
 ★障害理解には、社会の意識を変える必要が欠かせない。そのために今自分に何が出来るか?一人一人の確かな居場所を見つけることそれぞれが努力していかなければいけない。つながり合うことが大切等メッセージしっかり受け止めます。(保護者)

平成23年度独立行政法人社会福祉医療機構助成 「発達障害児・者の社会的自立支援体制構築事業」

特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会 主催

サポートブック作成&グループ相談会 派遣依頼募集

サポートブックは、障害のある人のための支援ツールとして、保護者が近くにいないときに最低限の安全を守れるように、初めて接する人とよりよい コミュニケーションがとれるようにという保護者の願いのもと、つくられ始めるようになりました。

必要な個所を必要とときに見て貰うことができるように、障害をもつ子どもの成長にあわせてバージョンアップを行い、保護者がより最新のものへと管理しながら障害をもつ子どもと一緒に楽しみながら作成いたします。その活用方法としては 本人活動の時のボランティアの方に、ショートステイ先の支援員やヘルパーさんに、また 幼稚園や学校の先生方に、さらに 水泳などの習い事のインストラクターや おじいちゃん・おばあちゃんや親戚の方へと 様々な用途に使用できます。

本人と周りの方々とのコミュニケーションを促進し 本人が地域で楽しく過ごすために その意義を理解して頂き、有効に活用できるよう、保護者さんだけでなく 支援者の方のグループ也大歓迎です。

☆保護者グループや 支援者の団体様からの ご依頼を頂けましたら奈良県自閉症協会ペアレントメンターと奈良HAH AHA キャラバン隊の母が2～5名グループで お伺いいたします。

支援や療育の悩みを グループ相談形式で お受けしながらサポートブック研修と作成のお手伝いを させていただきます。

研修先会場 ; 会場は 申し込みグループ団体様で ご準備をお願いいたします。

ご用意が難しい場合は 当会SKIP教室を 無料でお貸しいたします。

研修費用 1人 基本として サポートブック資料代500円のみ お願いいたします。

研修日時 8月～2月まで 可能な限り 平日 10:00～14:00の間で2～3時間

問い合わせ先・申込先 TEL・FAX 0743-25-4299(7/20より)

e-mail naraskip@yahoo.co.jp

ふりがな
グループ・団体名

連絡先	TEL/FAX	mail (携帯可)		
	代表者名	男・女 () 歳	会員 非会員	保護者 支援者

研修場所	会場名	参加予定人数 人
	住所	

希望日時	第1希望	月 日 ()	時間	:	~	:
	第2希望	月 日 ()	時間	:	~	:
	第3希望	月 日 ()	時間	:	~	:

希望の返信方法 FAX ・ メール

☆ グループ人数は 何名からでも OKです。(10名以下が 理想ですが ご相談させて貰います)

☆ 申し込み頂きましたら 1週間以内にお返事致します。可能なら メール方法が有難いです。

平成23年度独立行政法人社会福祉医療機構助成 「発達障害児・者の社会的自立支援体制構築事業」

皆さまの地域へ キャラバン隊の巡回公演依頼募集

皆さまのもとへ

奈良県自閉症協会

みんなちがって みんないい



～ 知ってほしいな 自閉症・発達障がいのこと

こんにちは。奈良 HA-HA-HA キャラバン隊です。私達は自閉症の子どもを育てる母親達です。外見からはなかなかわかりにくく誤解されやすい「自閉症」・「アスペルガー症候群」など「発達障がい」とよばれる人達の事を知って頂きたくてこの活動を始めました。

脳の働きにユニークさがある自閉症の人たちの事を「自分の立場」に置き換えて考え理解する事は、なかなか難しい事です。しかし、たくさんの疑似体験を交える事で、少しでも多くの人と自閉症の人達との距離を縮める事ができたらいいなと思います。「困った人ではなく、困っている人だ」という理解があれば、そのユニークさも個性として、「共に安心して生きていける社会」に繋がると私たちは信じています。

『自閉症である事は特別な事ではありません。誰にでも得意なものと苦手なことがあるように、自閉症の人にも出来ることと出来ないことがあります。みんな一人一人違って当たり前なのです。』

そんなメッセージを込めて先生・保護者・児童・支援者、一般の方を対象にお話させて頂いています。

奈良 H A H A H A キャラバン隊 講演依頼先
募集中!!! 日程や 内容等
ご相談させていただきます。



～ 公 演 内 容 ～

自閉症って何？
見え方体験
聞こえ方体験
コイン入れ体験
嬉しい接し方
ひび割れ壺
ぼくたちのせかい
母の気持ち
歌 etc...

保護者の団体、グループ
サービス事業所や施設様へ
幼稚園、学校など 何処へでも
ご依頼がありましたら
ご相談の上 お伺いします。



問い合わせ先 TEL/FAX 0743-25-4299
asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp

***** 奈良 H A H A H A 隊メンバーは*****

全て自閉症の子供を育てている母たちです。

不思議な 笑える自閉っ子たちから 元気をもらった母より

***** 皆さまをきらきら星の世界へご招待 *****

NPO 法人 奈良県自閉症協会 奈良 HA-HA-HA キャラバン隊



平成23年度独立行政法人社会福祉医療機構助成 「発達障害児・者の社会的自立支援体制構築事業」

特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会主催

平成23年度 保護者の為の自閉症理解と生活支援ワークショップ

自閉症として生まれてきた子供と楽しく過ごすために！

ちょっとした工夫をして、ちょっと考えかたを変えてみて・・・

自閉症の子どもをもつ親どうし、一緒に学びませんか？

- 対象者 : 奈良県内在住の自閉症の診断を受けた子どもの保護者
 子どもの年齢は問いません。全10回 出来る限りご参加出来る方
- 定員 : 20名
- 参加費 : 無料 (23年度 助成金対象になり 参加費無料になりました)
- 講師 : 波多野 伸江先生 (臨床心理士)
- 場所 : 奈良県心身障害者福祉センター (田原本)
 SKIP教室 大和郡山市泉原町10-3 (他)
- 時間 : 10:30~12:30

全8回予定 日程表

日時 (田原本)	内 容	SKIP教室での補修日
9月 8日	自閉症って何？	9月14日、13日
9月22日	評価について 我子の事を知ろう！	9月27日 29日
10月20日	構造化って何？ どうして必要？	10月25日 27日
11月10日	コミュニケーションについて その1	11月15日 17日
12月 1日	コミュニケーションについて その2	12月5日 6日
1月13日	困った行動？どうしたら	1月17日 20日
2月 2日	困った行動？ どうしたら？から 何故？	2月7日 9日
3月 2日	まとめ 質問	3月6日 8日

*21年度・22年度の参加者の引き続きの参加も大歓迎です。

更に 実践内容を取入れて計画中！！

*奈良県心身障害者福祉センターの日程で参加出来なかった回は
 補修日を設けて SKIP教室で ビデオ学習等で対応致します。

(補修日参加は事前に連絡が必ず必要です。)

*補修日には 毎回の課題ワークのフォロー等も行います。

*リピーターの方向けの フォローアップ内容も用意しました。

以前のSKIP教室から 大和郡山市泉原町に引っ越ししました。

支援グッズや 個別課題等のいろんな資料や、自閉症や発達障害の本や

これまでの 講演会ビデオなども置いてありますので補修日には お時間のある限り 見ていただけます。

発行人：関西障害者定期刊行物協会

住 所：〒543-0015

大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4F

編集人：河村 舟二

定 価：100円